

1.	②	11.	③	21.	②	31.	①	41.	③
2.	③	12.	④	22.	①	32.	③	42.	②
3.	③	13.	①	23.	③	33.	④	43.	②
4.	③	14.	①	24.	④	34.	①	44.	④
5.	④	15.	③	25.	③	35.	①	45.	①
6.	①	16.	④	26.	②	36.	③	46.	②
7.	①	17.	④	27.	③	37.	②	47.	④
8.	④	18.	②	28.	②	38.	③	48.	④
9.	④	19.	④	29.	①	39.	①	49.	②
10.	①	20.	①	30.	②	40.	④	50.	③

1.

解答 ②

【解説】

英語表現「global warming」は、「地球温暖化」という意味です。大気中の特定のガス（温室効果ガス）の増加によって、世界の気温が上昇する現象を指します。例えば、「地球温暖化を食い止める」は stop global warming と表現します。選択肢①「世界経済」は the global economy、③「国際貿易」は global trade、④「一般常識」は common sense です。

◆補足：global は「地球規模の」、warming は「温暖化」を意味し、二つの単語が組み合わさった複合名詞です。

2.

解答 ③

【解説】

「～を（事実・過ちとして）認める」という意味に最も近い英単語は③の admit です。特に、最初是否定していたことや、自分に不都合なことを、真実であると渋々受け入れるニュアンスがあります。例えば、「彼は過ちを認めた」は He admitted his mistake. と表現します。他の選択肢について、① submit は「～を提出する」、② commit は「（罪など）を犯す」、④ permit は「～を許可する」という意味です。

◆補足：admit は、「（入学・入院など）を許可する」という意味も持ちます。名詞形は admission で、「入場（許可）、入学（許可）」という意味になります。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の **excuse** です。**excuse** は、自分の過ち、失敗、遅刻などを正当化したり、その責任を軽くしたりするために述べる理由、つまり「言い訳、口実」を指します。**He is always making excuses for being late.** (彼はいつも遅刻の言い訳ばかりしている) のように、しばしばネガティブなニュアンスで使われます。① **evidence** は「証拠」、② **request** は「要求」、④ **reason** は「理由」という意味です。④の **reason** は中立的な「理由」を指すのに対し、**excuse** は自己弁護のニュアンスが強いという違いがあります。

◆**補足**：**excuse** は名詞の「言い訳」のほかに、動詞として「～を許す」という意味でも使われます。**Excuse me.** (失礼します) という表現でおなじみですね。名詞と動詞では発音が異なる点に注意が必要です。名詞の場合は /ɪk'skju:s/ と最後にスと濁らない音ですが、動詞の場合は /ɪk'skju:z/ とズと濁る音になります。この発音の違いも併せて覚えておくと、リスニングの際に役立ちます。

4.

解答 ③

【解説】

英単語「**dedicated**」は、「献身的な、熱心な」という意味の形容詞です。ある目的や仕事、理想などに対して、多くの時間や労力を捧げている様子を表します。例えば、「献身的な教師」は **a dedicated teacher** と表現します。選択肢①「繊細な」は **delicate**、②「遅れた」は **delayed**、④「推測された」は **deduced** です。

◆**補足**：**dedicated** は、動詞 **dedicate** (～を捧げる) の過去分詞形が形容詞として使われているものです。名詞形は **dedication** (献身) です。**be dedicated to ~** (～に献身している) の形でよく使われます。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の **in the face of ~** です。この表現は、困難や危険、反対といった好ましくない状況に「直面して、～にもかかわらず」という意味で使われます。**She showed great courage in the face of danger.** (彼女は危険に直面して大いなる勇気を示した) のように用います。① **because of ~** は「～のために、～が原因で」、② **instead of ~** は「～の代わりに」、③ **on behalf of ~** は「～を代表して」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**in the face of ~** は、文字通り何かの「顔の前で」というイメージから、「困難などが目の前に立ちだかっている状況」を表します。単に困難な状況があるだけでなく、それに立ち向かう、あるいは

はその中で何かを行うというニュアンスが含まれます。類義語の **in spite of** ~ (～にもかかわらず) と似ていますが、**in the face of** ~の方がより直接的に困難と対峙している感じが強い表現です。

6.

解答 ①

【解説】

「～を修理する」という意味に最も近い英単語は①の **repair** です。壊れたり、傷んだり、破れたりしたものを、元の正常な状態に戻すことを指します。例えば、「時計を修理する」は **repair a watch** と表現します。他の選択肢について、② **prepare** は「～を準備する」、③ **compare** は「～を比較する」、④ **despair** は「絶望する」という意味です。

◆**補足**：**repair** の類義語には **fix** や **mend** があります。**fix** は最も口語的で幅広く使われ、**mend** は主に布製品の修繕に使われることが多いです。**repair** は、機械や建物など、より専門的な修理を指す傾向があります。

7.

解答 ①

【解説】

「目標」という意味に最も近い英単語は①の **goal** です。達成したいと望む事柄や目的を指します。例えば、「目標を設定する」は **set a goal**、「目標を達成する」は **achieve a goal** と表現します。他の選択肢について、② **gold** は「金」、③ **goat** は「ヤギ」、④ **deal** は「取引」です。

◆**補足**：**goal** は、スポーツの「ゴール」としても使われますが、人生や仕事における長期的な「目標」というニュアンスで使われることが多いです。類義語の **aim** や **target** よりも、より個人的で大きな目標を指す傾向があります。

8.

解答 ④

【解説】

正解は④「卒業」です。**graduation** は、学校の全課程を修了し、学位や卒業証書を受け取ることを指す名詞です。**We are all invited to his graduation ceremony.** (私たちは彼の卒業式に招待されています) のように使われます。①「入学」は **entrance**、②「休暇」は **vacation** や **holiday**、③「授業」は **class** や **lesson** がそれぞれ対応する英単語であり、学校に関連する言葉ですが意味が異なります。

◆**補足**：**graduation** の動詞形は **graduate** です。通常、**graduate from** ~の形で「～を卒業する」という意味を表します。例えば、**She graduated from college last year.** (彼女は昨年、大学を卒業した) のように使います。また、卒業生のことを **graduate** と呼ぶこともあります (イギリス英語ではより一般的)。卒業を祝う「卒業式」は **graduation ceremony** と言います。

9.

解答 ④

【解説】

正解は④「課題」です。**assignment** は、学生に課される「宿題」や「研究課題」、あるいは仕事で割り当てられる「任務」などを指す名詞です。**The students have to finish their history assignment by next week.** (生徒たちは来週までに歴史の課題を終えなければならない) のように使います。①「講義」は **lecture**、②「休憩」は **break** や **rest**、③「試験」は **exam** や **test** が対応する単語で、学校に関連する言葉ですが意味が異なります。

◆**補足**：**assignment** は、動詞の **assign** (～を割り当てる、課す) の名詞形です。「割り当てられたもの」というコアの意味から、宿題や任務といった意味に発展しています。日本語の「宿題」には **homework** という単語もありますが、**homework** が一般的な家庭学習を指すのに対し、**assignment** はより具体的で、レポートや研究など、ある程度まとまった量の課題を指すことが多いです。

10.

解答 ①

【解説】

正解は①「自信がある」です。**confident** は、自分の能力や将来の成功などについて、確信を持っている状態を表す形容詞です。**She is confident that she will pass the exam.** (彼女は試験に合格すると自信を持っている) のように使います。②「不安な」は **anxious**、③「恥ずかしがりな」は **shy**、④「満足した」は **satisfied** が対応し、いずれも異なる心理状態を表します。

◆**補足**：**confident** の名詞形は **confidence** (自信) です。**have confidence in** ~ (～に自信を持っている) や **lose one's confidence** (自信を失う) といった形でよく使われます。形容詞 **confident** は、**confident of** ~ や **confident about** ~ のように前置詞を伴うことも、**confident that S+V** のように **that** 節を伴うこともできます。これらの使い方をマスターすると、表現の幅が大きく広がります。

11.

解答 ③

【解説】

英語表現「**be at a loss**」は、「途方に暮れている、何をすべきか分からない」という意味です。どうしたらよいか全く分からず、困惑している状態を表します。例えば、「何を言えばいいか分からなかった」は **I was at a loss for words.** と表現します。選択肢①「損をしている」も **be at a loss** 英語表現「**be at a loss**」は、「途方に暮れている、何をすべきか分からない」という意味です。どうしたらよいか全く分からず、困惑している状態を表します。例えば、「何を言えばいいか分からなかった」は **I was at a loss for words.** と表現します。選択肢①「損をしている」も **be at a loss** の意味ですが、文脈

が異なります（金銭的な損失）。②「間に合わない」は **be late**、④「休んでいる」は **be at rest** です。ss の意味ですが、文脈が異なります（金銭的な損失）。②「間に合わない」は **be late**、④「休んでいる」は **be at rest** です。

◆補足：loss は「喪失、損失」という意味の名詞です。「判断力を失った状態にいる」というイメージが、「途方に暮れている」という意味につながっています。

12.

解答 ④

【解説】

「おそらく」という意味に最も近い英単語は④の **probably** です。何かが起こる可能性が非常に高い、という推測を表します。例えば、「彼はおそらく来るだろう」は **He will probably come.** と表現します。他の選択肢について、① **properly** は「適切に」、② **promptly** は「迅速に」、③ **personally** は「個人的に」という意味です。

◆補足：**probably** は、類義語の **possibly** や **perhaps** よりも確信度が高いことを示します。形容詞形は **probable**（ありそうな）、名詞形は **probability**（可能性、確率）です。

13.

解答 ①

【解説】

正解は①の **approach** です。**approach** は、問題や課題に対する「考え方、取り組み方、手法」という意味で使われる名詞です。**We need a new approach to solve this problem.**（この問題を解決するためには、新しい取り組み方が必要だ）のように用います。② **solution** は「解決策」、③ **process** は「過程、プロセス」、④ **opinion** は「意見」という意味で、それぞれ問題解決の異なる側面を指す言葉であり、文脈に合いません。

◆補足：**approach** は名詞だけでなく、「～に近づく、接近する」という意味の動詞としても非常によく使われます。例えば、**The train is approaching the station.**（電車が駅に近づいている）のように使います。名詞の「取り組み方」という意味も、問題に「どう近づいていくか」というイメージから派生したと考えると理解しやすいでしょう。名詞と動詞で形が変わらない点も覚えておきましょう。

14.

解答 ①

【解説】

正解は①の **end up with ~** です。この表現は「(いろいろあったが) 最終的に～という結果で終わる」「結局は～を手にする」という意味で、特に予期していなかった結果になったというニュアンスで使われます。**with** の後には、結果として残った物や状況を表す名詞が来ます。**If you don't work hard,**

you will end up with nothing. (一生懸命働かなければ、最後には何も残らないだろう) のように使います。② come up with ~は「～を思いつく」、③ catch up with ~は「～に追いつく」、④ put up with ~は「～を我慢する」という意味で、意味が異なります。

◆補足：end up は「最終的に～になる」というコアの意味を持つ句動詞です。end up with ~のように後ろに名詞を続ける用法以外に、end up doing (結局～することになる)、end up in [場所] (結局～にいることになる)、end up as [役職] (結局～として終わる) など、様々な形で使われます。いずれも、意図していなかった意外な結末や、紆余曲折を経た末の最終的な状況を表すのに便利な表現です。

15.

解答 ③

【解説】

正解は③「犯人」です。criminal は、法律を破る罪を犯した人、すなわち「犯罪者、犯人」を指す名詞です。The police arrested the criminal after a long chase. (長い追跡の末、警察はその犯人を逮捕した) のように使います。①「弁護士」は lawyer、②「裁判官」は judge、④「警察官」は police officer が対応する単語です。これらは法律を守り、適用する側の人々であり、criminal とは対極の立場にあります。

◆補足：criminal は名詞だけでなく、「犯罪の、刑事上の」という意味の形容詞としても使われます。例えば、a criminal act (犯罪行為) や a criminal investigation (犯罪捜査) のように、他の名詞を修飾します。名詞の crime (犯罪) とセットで覚えておくと語彙が広がります。ある人が罪を犯す (commit a crime) と、その人は犯罪者 (criminal) と呼ばれる、という関係性を理解しておきましょう。

16.

解答 ④

【解説】

「一人で、独力で」という意味に最も近い英語表現は④の on one's own です。他人の助けを借りずに、自分だけの力で何かを行うことを示します。one's の部分には my, your, his などの所有格が入ります。例えば、「彼は独力でその問題を解決した」のように使います。他の選択肢について、① on the other hand は「他方では」、② on time は「時間通りに」、③ on duty は「勤務中で」という意味です。

◆補足：on one's own は、by oneself とほぼ同じ意味で使うことができます。

17.

解答 ④

【解説】

英語表現「too ～ to do」は、「あまりに～なので…できない」という意味です。too の後ろの形容詞・副詞が示す程度が強すぎて、to 不定詞の動作が不可能であることを示します。否定語 not は含まれていませんが、文全体として否定的な意味になるのがポイントです。例えば、This coffee is too hot to drink. (このコーヒーは熱すぎて飲めない) のように使います。選択肢①「…するほど～だ」は ～ enough to do です。

◆補足：「～すぎて…できない」という否定的な意味の too ... to do と、「…するのに十分～だ」という肯定的な意味の ... enough to do は、対で覚えることが重要です。

18.

解答 ②

【解説】

正解は②「～をひどく嫌う」です。hate は、単に好きではない(dislike)というレベルを超えて、強い嫌悪感や憎しみを抱いている状態を表す動詞です。I hate getting up early in the morning. (私は朝早く起きるのが大嫌いだ) のように、人だけでなく行為や物事に対しても使われます。①「～を好む」は like や love、③「～を許す」は forgive や permit、④「～を隠す」は hide が対応する単語で、意味が全く異なります。

◆補足：hate は感情の強さを表す言葉ですが、I hate to do... (～するのは気が進まない、心苦しい) という形で、相手に言いにくいことを伝える際の丁寧な前置きとして使われることもあります。例えば、I hate to say this, but you're making a mistake. (こんなことは言いたくないのですが、あなたは間違いを犯しています) のように用いられます。この場合の hate は「憎む」というより「残念に思う」というニュアンスに近くなります。名詞形は hatred (憎悪) です。

19.

解答 ④

【解説】

英語表現「around the corner」は、比喩的に「間近に迫って、もうすぐ」という意味で頻繁に使われます。時間的に非常に近い未来の出来事を指します。例えば、「春はもうすぐそこだ」は Spring is just around the corner. と表現します。選択肢①「世界中で」は around the world、②「交代で」は in turns、③「裏側で」は behind the scenes などが対応します。

◆補足：この表現は、文字通りには「角を曲がった所に」という意味ですが、角を曲がればすぐ見えるという物理的な近さから、「時間的に近い」という比喩的な意味で使われることが非常に多いです。

20.

解答 ①

【解説】

「～を心配している」という意味に最も近い英語表現は①の **be concerned about** です。何かについて不安や懸念を抱いている状態を表します。例えば、「私は彼の健康を心配している」は **I am concerned about his health.** と表現します。他の選択肢について、② **be certain about** は「～を確信している」、③ **be confused about** は「～について混乱している」、④ **be conscious of** は「～に気づいている」という意味です。

◆**補足**：**be concerned with** ～ という表現もあり、こちらは「～に関係している、関心がある」という意味になるため、前置詞 **about** と **with** の使い分けが重要です。

21.

解答 ②

【解説】

正解は②の **assign** です。**assign** は、仕事、責任、部屋などを特定の人や目的のために「割り当てる、指定する」という意味の動詞です。例えば、**The teacher assigned a lot of homework to the students.** (先生は生徒たちにたくさんの宿題を課した) のように使います。① **assist** は「～を手伝う、支援する」、③ **assume** は「～を当然のことと思う、～と仮定する」、④ **assure** は「～に保証する、確信させる」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**assign** の語源は、ラテン語の **ad** (～の方へ) と **signare** (印をつける) に由来します。このことから、「これは誰々のものだ、と印をつけて渡す」というイメージで捉えると意味を記憶しやすくなります。この動詞の名詞形は **assignment** で、「割り当てられたもの」という意味から、特に学生の「宿題」や「課題」という意味で頻繁に使われます。これも非常に重要な単語なので、動詞とセットで覚えておきましょう。

22.

解答 ①

【解説】

正解は①の **The chances are that ...** です。この表現は「(物事の状況から見て) たぶん～だろう」「～という公算が大きい」と、高い確信度をもって推測する際に使われる口語的な表現です。**The chances are that he will be late.** (たぶん彼は遅れてくるだろう) のように使います。② **The point is that ...** は「要するに～ということだ」、③ **It is a shame that ...** は「～なのは残念だ」、④ **There is no doubt that ...** は「間違いなく～だ」という意味で、推量の度合いや話の焦点が異なります。

◆**補足**：**The chances are that ...** は、副詞の **probably** とほぼ同じ意味を表しますが、より会話で好まれる表現です。文頭の **The** は省略されて、**Chances are that ...** となることも非常に多いです。**that** 節の中には、推測する内容が述べられます。**chance** というと「機会」という意味が有名ですが、ここでは「可能性、見込み」という意味で使われています。その可能性 (**chances**) が十分にある (**are**) ということから、「たぶん～だろう」という意味になる、と理解すると良いでしょう。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の **make up one's mind** です。いくつかの選択肢や可能性の中から、考えた末に心を決める、というニュアンスを表します。I can't make up my mind which one to choose. (どちらを選ぶべきか決心がつかない) のように、否定文や疑問文で使われることも多いです。① **change one's mind** は「考えを変える、心変わりする」、② **speak one's mind** は「本音を話す」、④ **bear ~ in mind** は「~を心に留めておく」という意味で、**mind** を使った表現ですが意味は異なります。

◆**補足**：「決心する」という意味の単語には **decide** がありますが、**make up one's mind** は **decide** よりも口語的で、迷いや葛藤の末に決断するというプロセスをより強調する傾向があります。**up** には「完全に」というニュアンスがあり、バラバラだった考えを一つにまとめ上げるイメージを持つと覚えやすいでしょう。所有格の部分 (one's) は、主語に合わせて **my, your, his, her** などに変えて使います。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④「~を尊敬する」です。**look up to ~** は、誰かを敬意や称賛の念をもって見る、すなわち「~を尊敬する」という意味の句動詞です。He is a great leader that everyone in the company looks up to. (彼は社内の誰もが尊敬する、素晴らしいリーダーだ) のように使います。①「~の世話をする」は **look after ~**、②「~を見下す」は **look down on ~**、③「~を調べる」は **look up ~** が対応し、いずれも **look** を使った重要表現ですが意味が異なります。

◆**補足**：**look up to ~** という表現の由来は、文字通り、自分より背が高い人や高い場所にいる人を「見上げる (**look up**)」という動作にあります。この物理的な動作が、比喩的に社会的地位や能力が上の人を敬う「尊敬」の意味で使われるようになりました。対義語である **look down on ~** (~を見下す) とセットで覚えると、イメージが掴みやすく記憶に定着しやすいでしょう。

25.

解答 ③

【解説】

正解は③の **give ~ a try** です。これは「(うまくいくか分からないが) 一度やってみる、試す」という、気軽な挑戦を表す口語的な表現です。目的語が **it** の場合、**give it a try** という形で非常によく使われます。I'm not sure if I can do it, but I'll give it a try. (できるか分かりませんが、試してみます) のように使います。① **give ~ a hand** は「~に手を貸す、手伝う」、② **give in to ~** は「~に屈する、負ける」、④ **give up on ~** は「~を見限る、~にあきらめをつける」という意味で、文脈に合いません。

◆**補足**：**give ~ a try** の **try** は動詞ではなく「試み」という意味の名詞です。同様の構造を持つ表現に **give it a shot** や **give it a go** があり、これらも「試しにやってみる」という意味で互換的に使えます。

単純に動詞の try を使うよりも、give it a try という方が「とりあえず一回やってみよう」というような、より軽く、会話的なニュアンスが出ることが多いです。何か新しいことに挑戦するよう相手に勧めるときにも、You should give it a try.のように頻繁に使われます。

26.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を断る」です。refuse は、申し出、招待、要求などを、きっぱりと「断る、拒否する」という意味の動詞です。He refused my offer of help. (彼は私の助けの申し出を断った) のように使います。①「～を要求する」は request や demand、③「～を受け入れる」は accept、④「～を許す」は forgive や allow が対応します。特に③accept は refuse の直接的な対義語です。

◆補足：refuse は、後ろに to 不定詞を続けて refuse to do の形で「～するのを拒む」という意味で非常によく使われます。The car refused to start. (その車はどうしてもエンジンがかからなかった) のように、物事が意図通りに機能しない様子を擬人化して表現することもあります。似た単語に reject がありますが、refuse が個人的な申し出などを断るのに使われることが多いのに対し、reject はより公式な文脈で計画や提案などをはねつける場合に使われる傾向があります。

27.

解答 ③

【解説】

正解は③の disappoint です。この動詞は、期待していたことが実現しなかったり、期待以下の結果だったりして、人を「がっかりさせる、失望させる」という意味です。The movie's ending disappointed many viewers. (その映画の結末は多くの観客をがっかりさせた) のように使います。① surprise は「～を驚かせる」、② satisfy は「～を満足させる」、④ delight は「～を大いに喜ばせる」という意味で、いずれも「がっかりさせる」という意味とは異なります。

◆補足：disappoint から派生する二つの形容詞、disappointed と disappointing の使い分けは非常に重要です。人が「がっかりした」状態を表す場合は、I was disappointed with the result. のように disappointed を使います。一方、何かが「がっかりさせるような」ものである場合は、The result was disappointing. のように disappointing を使います。感情を表す動詞の多くがこの-ed 形と-ing 形の形容詞を持つので、ルールをしっかり理解しておきましょう。

28.

解答 ②

【解説】

「(～に) 訴える、魅力」という意味に最も近い英単語は②の **appeal** です。動詞としては、助けや同情などを「懇願する、訴える」(**appeal for help**) こと、名詞としては、人の心を引きつける「魅力」(**sexual appeal**) を指します。他の選択肢について、① **appear** は「現れる」、③ **apply** は「申し込む」、④ **approach** は「近づく」という意味です。

◆補足：**appeal to** ～ の形で、「～に訴える」または「～の心に響く、～にとって魅力的である」という意味になります。

29.

解答 ①

【解説】

正解は①の **make fun of** ～です。この表現は、誰かの外見や失敗などを笑いものにして「～をからかう、ばかにする」という意味で、しばしば相手を傷つける意図が含まれます。It's not nice to make fun of people for their mistakes. (人の失敗をからかうのは良いことではない) のように使います。② **take care of** ～は「～の世話をする」、③ **have fun with** ～は「～と楽しむ」、④ **play a joke on** ～は「～にいたずらをする」という意味です。

◆補足：**make fun of** ～と似た表現に **tease** がありますが、**tease** が親しい間柄での愛情のこもった「からかい」を含むことがあるのに対し、**make fun of** ～はより意地悪で、相手を嘲笑するネガティブなニュアンスが強いです。**fun** という単語が入っていますが、必ずしも「楽しい」状況で使われるわけではない点に注意が必要です。

30.

解答 ②

【解説】

英語表現「**needless to say**」は、「言うまでもなく」という意味です。話している相手も当然知っているであろう、明らかな事柄を導入する際に使われます。文頭に置かれることが多い、ややフォーマルな表現です。例えば、「言うまでもなく、健康は富にまさる」は **Needless to say, health is better than wealth.** と表現します。選択肢①「言い換えれば」は **in other words**、③「奇妙なことに」は **strange to say**、④「残念ながら」は **sad to say** です。

◆補足：文字通り「言うことが不必要 (**needless**)」である、という成り立ちです。It goes without saying that ... も同様の意味を表す重要な表現です。

31.

解答 ①

【解説】

正解は①の **have second thoughts** です。この表現は、一度決めたことや計画していたことについて、後から「本当にそれで良いのだろうか」と疑いや迷いが生じ、考え直している状態を表します。I was going to buy the jacket, but now I'm having second thoughts. (そのジャケットを買うつもりだったが、今になって考え直している) のように使います。② **have a good time** は「楽しむ」、③ **have something to do** は「何かすることがある」、④ **have no idea** は「見当もつかない、分からない」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：この表現は、**second thought** (再考、考え直し) という名詞句から来ています。最初の考え (**first thought**) に対して、二番目の考え (**second thought**) が浮かぶ、というイメージで捉えると分かりやすいでしょう。決断した後不安になったり、より慎重になったりする心理状態を描写するのに便利な表現です。似た表現に **reconsider** (～を再考する) がありますが、**have second thoughts** の方がより口語的で、ためらっているニュアンスが強いです。

32.

解答 ③

【解説】

「～を固定する、取り付ける」という意味に最も近い英単語は③の **fix** です。何かを特定の場所に、動かないようにしっかりと据え付けることを指します。例えば、「壁に棚を取り付ける」は **fix a shelf to the wall** と表現します。他の選択肢について、① **fit** は「(サイズが) ～に合う」、② **face** は「～に面する」、④ **fill** は「～を満たす」という意味です。

◆補足：**fix** は、「～を修理する」という意味でも非常によく使われ、**repair** や **mend** の類義語です。また、「(食事) を用意する」や「(日時・価格など) を決定する」といった意味も持つ多義語です。

33.

解答 ④

【解説】

「(新聞や雑誌の) 記事」という意味に最も近い英単語は④の **article** です。特定の主題について書かれた、新聞や雑誌、ウェブサイトなどの中の一つの文章を指します。例えば、「新聞記事を読む」は **read a newspaper article** と表現します。他の選択肢について、① **archive** は「記録保管所」、② **artist** は「芸術家」、③ **architect** は「建築家」です。

◆補足：**article** には他に、「(法律や契約の) 条項」や、文法用語の「冠詞」(**a, an, the**) といった意味もあります。文脈に応じて意味を判断する必要があります。

34.

解答 ①

【解説】

英語表現「It's up to you.」は、「あなた次第です。」という意味です。決定権が相手にあることを示す際に使われます。例えば、夕食に何を食いたいかが聞かれて、特に希望がない場合に「君の好きなものでいいよ」というニュアンスで使われます。選択肢②「あなたのおかげです」は Thanks to you.、③「あなたの番です」は It's your turn.、④「あなたもどうぞ」は Help yourself. などが対応します。

◆補足：up to ～ は、「(最大で) ～まで」(up to 10 people) や、「～をたくらんで」(be up to something) など、様々な意味を持つ重要な表現です。It's up to [人] の形で、「(人) の責任・判断に任されている」という意味になることを覚えておきましょう。

35.

解答 ①

【解説】

正解は①「苦痛」です。suffering は、肉体的または精神的な、長く続くつらい痛みや苦しみを指す名詞です。The charity aims to relieve human suffering. (その慈善団体は人々の苦痛を和らげることを目的としている) のように使われます。②「喜び」は joy や pleasure、③「成功」は success、④「健康」は health が対応する単語で、いずれも suffering とは逆の、望ましい状態を表す言葉です。

◆補足：suffering は動詞 suffer (苦しむ、患う) の名詞形です。suffer from ～ (～という病気で苦しむ、～に悩まされる) という形で非常によく使われます。例えば、He is suffering from a bad cold.

(彼はひどい風邪をひいている) のように用います。この動詞の形とセットで、名詞の suffering (苦しむ、苦痛) を覚えておくと効果的です。語源はラテン語の sub- (下に) と ferre (運ぶ) で、「下から重荷を運ぶ」イメージが「耐え忍ぶ、苦しむ」という意味につながっています。

36.

解答 ③

【解説】

正解は③の spectator です。spectator は、特にスポーツの試合やパレードのような屋外のイベントを「見る」人のことを指します。The spectators cheered loudly when their team scored a goal. (自分たちのチームがゴールを決めると、観客たちは大きな歓声を上げた) のように使います。① coach は「コーチ」、② referee は「審判」、④ player は「選手」という意味で、いずれも試合の当事者であり、観客ではありません。

◆補足：spectator とよく比較されるのが audience です。spectator の語源はラテン語の spectare (じっと見る) にあり、「見る」という行為に焦点が当てられています。このため、競技場などでスポーツの試合を観戦する「観客」を指す場合に最も適した単語です。一方、audience は「聞く」が語源であり、コンサートや演劇の「聴衆・観客」を指すのが中心です。このニュアンスの違いを理解しておくと、より正確な単語選びができます。

37.

解答 ②

【解説】

正解は②の **embarrass** です。この動詞は、人前で誰かを「きまり悪くさせる、恥ずかしい思いをさせる」という意味です。His joke embarrassed everyone at the party. (彼の冗談はパーティーにいた全員をきまり悪くさせた) のように使います。① **encourage** は「～を励ます」、③ **entertain** は「～を楽しませる」、④ **impress** は「～に感銘を与える」という意味で、いずれもポジティブな感情を引き起こす動詞であり、文脈に合いません。

◆**補足**：**embarrass** から派生する二つの形容詞、**embarrassed** と **embarrassing** の使い分けは非常に重要です。**embarrassed** は人が「恥ずかしいと感じている」状態を表し (I was so embarrassed.)、**embarrassing** は何かが「恥ずかしい思いをさせるような」性質を持っていることを表します (It was an embarrassing situation.)。主語が人か物かで使い分ける、と覚えておくと良いでしょう。

38.

解答 ③

【解説】

正解は③「長い間」です。**for ages** は「非常に長い間」という期間を強調する口語的な表現です。I haven't seen you for ages! (会うの久しぶりだね!) のように、特に現在完了形と共に使われることが多いです。①「昔々」は **Long, long ago** や **Once upon a time**、②「年齢の割に」は **for one's age**、④「少しの間」は **for a little while** が対応し、意味が異なります。

◆**補足**：**for ages** の **age** は「年齢」や「時代」を意味しますが、複数形の **ages** は口語で「長い時間」という意味になります。**for a long time** と同じ意味ですが、**for ages** の方がより感情的で、待ちくたびれた気持ちや、久しぶりに会えた喜びなどを強調するニュアンスがあります。It took ages to find a parking space. (駐車場を見つけるのにものすごく時間がかかった) のように、うんざりした気持ちを表すのにも使えます。

39.

解答 ①

【解説】

「～に取って代わる、～と取り替える」という意味に最も近い英単語は①の **replace** です。ある物や人の役割を、新しいものや別の人が担うこと、あるいは古いものを新しいものと交換することを指します。例えば、「古い電池を新しいものと交換する」のように使います。他の選択肢について、② **repeat** は「～を繰り返す」、③ **release** は「～を解放する」、④ **reduce** は「～を減らす」という意味です。

◆**補足**：**replace** の名詞形は **replacement** (交換、後任者) です。接頭辞 **re-** (再び) と **place** (置く) から成り立っており、「再び正しい場所に置く」というイメージが核となっています。

40.

解答 ④

【解説】

正解は④「気分転換に」です。for a change は、いつもとは違うことをして「気分転換に、たまには」という意味を表す口語的な表現です。We always eat at home, so let's go out for a change. (いつも家で食事をしているから、たまには外食しようよ) のように、マンネリを打破したいときに使われます。

①「念のために」は just in case、②「無料で」は for free、③「変化のために」は直訳に近く、この表現が持つ「気分転換」というニュアンスを捉えられていません。

◆補足：for a change は、日常のルーティンから少し離れて、新鮮なことをしたいという気持ちを表すのに便利なフレーズです。文末に置かれることが多く、提案や誘いの文で効果的に使えます。例えば、You've been working too hard. Why don't you take a day off for a change? (働きすぎだよ。たまには一日休みを取ったらどうだい?) のように、相手を気遣う文脈でも使われます。

41.

解答 ③

【解説】

正解は③「亡くなる」です。pass away は、die (死ぬ) という直接的な言葉を避けるための、より丁寧で間接的な表現です。人の死について敬意を払って話す際に用いられます。Her grandfather passed away peacefully last night. (彼女の祖父は昨夜、安らかに息を引き取った) のように使います。①

「意識を失う」は lose consciousness、②「引退する」は retire、④「遠くへ引っ越す」は move far away などが対応します。

◆補足：pass away のような、死や病気、解雇など、不快な話題について話す際に使われる、穏やかで遠回しな表現を「婉曲表現 (euphemism)」と呼びます。他にも、日本語の「お手洗い」にあたる restroom (元は「休憩室」) など婉曲表現の一種です。言葉の持つ直接的な響きを和らげるために、様々な場面で使われます。

42.

解答 ②

【解説】

正解は②「驚くべき」です。amazing は、非常に素晴らしくて人を驚かせるような様子を表す形容詞です。The view from the top of the mountain was amazing. (山の頂上からの眺めは驚くほど素晴らしかった) のように使います。①「退屈な」は boring、③「普通の」は ordinary や normal、④「恐ろしい」は frightening や terrible が対応する単語です。これらは amazing の持つポジティブで驚きに満ちたニュアンスとは異なります。

◆補足：amazing は動詞 amaze（～をひどく驚かせる）の現在分詞形が形容詞として定着したものです。そのため、人の感情が主語になる場合は amazed（驚いて）という過去分詞形を使います。I was amazed at the news.（私はその知らせにひどく驚いた）。このように、amazing は驚きの「原因」を、amazed は驚いた「感情」を表すという使い分けがあります。類義語の surprising よりも驚きの度合いが強いニュアンスを持つことが多いです。

43.

解答 ②

【解説】

英単語「major」は、形容詞として「主要な、大きい方の」という意味です。同じ種類の中で、他よりも重要であったり、大きかったり、深刻であったりすることを示します。例えば、「主要な理由」は a major reason と表現します。選択肢①「未成年者」は名詞の minor、③「市長」は mayor で、発音が似ているため注意が必要です。④「手段」は manner や means です。

◆補足：major の対義語は minor（重要でない、小さい方の）です。また、名詞としては「(大学の)専攻」や「少佐」といった意味も持ちます。

44.

解答 ④

【解説】

英単語「paper」は、物質としての「紙」以外に、「論文、レポート」や「新聞」といった意味で非常に頻繁に使われます。この問題では「論文」が最も適切です。例えば、「彼はそのテーマに関する論文を書いた」のように使います。選択肢①「胡椒」は pepper、②「両親」は parents、③「小包」は parcel です。

◆補足：学術的な文脈で a paper と言えば、通常は「研究論文」を指します。また、a morning paper と言えば「朝刊」を意味します。このように、paper は文脈によって意味が大きく変わる多義語です。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①の refund です。refund は、購入した商品やサービスに不満があった場合などに、支払ったお金を返してもらうこと、つまり「返金、払い戻し」を意味します。If the product is defective, you can get a full refund.（もし製品に欠陥があれば、全額返金してもらえます）のように使います。② discount は「割引」、③ charge は「料金、請求」、④ receipt は「領収書、レシート」という意味で、いずれも買い物に関連する単語ですが意味は異なります。

◆補足：refund は名詞だけでなく、「～を払い戻す」という動詞としても使われます。The airline refunded my money because the flight was canceled. (飛行機が欠航になったので、航空会社はお金を払い戻してくれた) のように用います。get a refund (返金してもらう) や give a refund (返金する) という形で覚えておくと便利です。

46.

解答 ②

【解説】

「研究」という意味に最も近い英単語は②の research です。新しい情報を発見したり、新しい理解に到達したりするために、ある主題を詳細に調査することを指します。例えば、「科学研究」は scientific research と表現します。他の選択肢について、① resource は「資源」、③ resort は「行楽地、リゾート」、④ receipt は「領収書」です。

◆補足：research は、原則として数えられない不可算名詞です。動詞としても「～を研究する」という意味で使われますが、その場合の発音は /rɪ'sɜːrtʃ/ (リサーチ) のように後ろにアクセントが置かれます。名詞の発音は /ri:sɜːrtʃ/ (リサーチ) で、前にアクセントが来ます。

47.

解答 ④

【解説】

英語表現「a wide range of ～」は、「幅広い～、多種多様な～」という意味です。種類や選択肢が非常に豊富であることを示します。例えば、「幅広い製品」は a wide range of products と表現します。選択肢①「～の平均」は the average of ～、②「～の不足」は a lack of ～、③「～の一行」は a row of ～ です。

◆補足：range は「範囲」を意味し、wide (広い) がそれを強調しています。a wide variety of ～ とほぼ同じ意味で使うことができます。

48.

解答 ④

【解説】

正解は④の sacrifice です。sacrifice は、何かより重要だと考える目的や他者のために、自分にとって価値のあるものを「犠牲にする、断念する」という意味です。She sacrificed her career to raise her children. (彼女は子供を育てるために自らのキャリアを犠牲にした) のように使います。① gain は「～を得る」、② protect は「～を守る」、③ save は「～を救う、蓄える」という意味で、いずれも「犠牲にする」とは対照的な意味を持つ単語です。

◆補足：sacrifice は動詞だけでなく、「犠牲」という名詞としても使われます（形は同じ）。語源はラテン語の sacer（神聖な）と facere（作る）で、「神に捧げる神聖な行い」が元々の意味です。そこから、神への供物として動物などを捧げる「いけにえ」という意味を経て、現在のような「より大きな目的のための犠牲」という意味に発展しました。この背景を知ると、単に何かを失うだけでなく、そこには崇高な目的があるというニュアンスが感じ取れます。

49.

解答 ②

【解説】

英語表現「get by」は、「何とかやっていく、かろうじて暮らしていく」という意味です。お金や知識などが十分ではないものの、それで何とか生活したり、物事をこなしたりする状況を表します。例えば、「彼は少ない給料で何とかやっている」は He gets by on a small salary. と表現します。選択肢①「～を克服する」は get over ～、③「仲良くやる」は get along、④「起きる」は get up です。

◆補足：get by は、理想的な状態ではないが、最低限のレベルで「やりくりしている」というニュアンスを含みます。

50.

解答 ③

【解説】

正解は③「版」です。version は、同じ種類の物事でありながら、他とは少し異なる特定の形や形態、すなわち「～版」を指す言葉です。ソフトウェアのアップデート（the latest version of the software）や、映画のリメイク版（a new version of the movie）などでよく使われます。①「要約」は summary、②「原作」は original work、④「翻訳」は translation が対応する単語です。これらは作品に関連する言葉ですが、意味は異なります。

◆補足：version は、ラテン語の vertere（回す、変える）に由来し、「変えられたもの」というニュアンスを持っています。このため、元のものから少し変更が加えられた「改訂版」や、ある人の視点から見た「解釈、説明」という意味でも使われます。例えば、His version of the story was different from hers.（その話についての彼の説明は、彼女のとは異なっていた）のように用いることができます。
